〔８番　坂田美智子さん登壇〕

○８番（坂田美智子さん）　坂田美智子です。

通告に従いまして質問いたします。

私は、重度障害児（者）親の会「リアンの会」で代表を務めております。障害のある娘は、現在19歳です。リアンというのは、フランス語で、きずなという意味です。車椅子生活をしている子と親の会で、平成24年から市内の学校や自治会、民生委員の研修会などにみんなで出かけ、出前授業を行っております。また、バリアフリーてけてけ隊として毎年イベントを企画し、商店街と連携して、心のバリアフリーを広げる活動を行っております。

先日、リアンの会に在籍する母親から、重度障害者向けの通所施設、お年寄りで言うデイサービスのような施設なのですが、あと数年で満員になってしまうという不安の声が上がっています。また、私は自宅で塾を開いているのですが、不登校の相談を受けることも少なくありません。そういった不登校の子が友達と安心して過ごせる居場所が欲しいという要望も出ています。こうした中、先日の新聞に学校再編の記事が出ていたことから、学校の跡地を活用できないかと考えました。

これらを踏まえ、以下の質問をいたします。

(1)重度障害者向けの生活介護施設の受け入れ状況はいかがでしょうか。

(2)市内の不登校児の現状や課題を教えていただきたいです。

(3)再編後の学校施設の使い方は決まっているでしょうか。

以上、質問いたします。

〔８番　坂田美智子さん発言席へ移動〕

○議長（村田千鶴子議員）　染谷市長。

〔市長　染谷絹代登壇〕

○市長（染谷絹代）　坂田さんの御質問にお答えをいたします。最初に私から答弁申し上げ、(2)(3)については教育長から答弁させますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、(1)の御質問についてお答えをいたします。重度障害があり、日中の生活介護サービスを希望される方は、現状では全員通所施設を利用できております。しかし、今年度、特別支援学校高等部を卒業する予定の方の中には、生活介護サービスを希望している方もおり、そうした生徒の受け入れを考慮すると、通所施設は不足すると見込んでおります。また、現在、特別支援学校小学部に在籍する、重度障害がある児童が高等部を卒業後に通所する施設も不足するものと予測しております。このため、市内の生活介護事業所が令和２年４月から医療的ケアを必要とする重度障害のある方を受け入れることができるよう準備を進めております。

市としては、今後も引き続き障害福祉計画に基づき、適切に受け入れができるよう、通所施設の確保に努めてまいりたいと考えております。

以上、答弁申し上げました。

引き続き、教育長から答弁させます。

○議長（村田千鶴子議員）　濱田教育長。

〔教育長　濱田和彦登壇〕

○教育長（濱田和彦）　市長に続き、坂田さんの(2)の御質問についてお答えします。昨年度、年間30日以上欠席した児童生徒数は、小学校で約40人、中学校で約70人いました。今年度６月末現在では、小学校で約20人、中学校で約50人です。

教育センターには、学習支援やスポーツ活動、社会見学や調理などの体験活動を行うチャレンジ教室があり、小・中学校合わせて約30人が通っています。また、不登校児童生徒の保護者を対象に、困り感や悩みを語り合うわかあゆの会も年４回開催し、保護者支援をしています。

市が指定している民間の適応指導教室であるもみの木では、毎週火曜日と金曜日の午後に、学習支援や絵画療法のほか、自然散策などの課外活動を小・中学校合わせて約10人の児童生徒が行って

います。

一方で、課題の一つとして、適応指導教室や医療機関などの外部機関とつながっていない児童生徒もいることが挙げられます。

次に、(3)の御質問についてお答えします。学校再編につきましては、現在、計画案に対するパブリックコメントを募集している段階であり、８月下旬開催の教育委員会定例会の議決をもって正式決定となります。このため、再編後の学校施設等の利活用についても、決定後に検討を始めることとなります。なお、学校施設の利活用については、副市長をトップとした島田市学校施設跡地利活用検討委員会において、地域の声を聞き取りながら検討していきます。

以上、答弁申し上げました。

なお、再質問につきましては、担当部長から答弁させる場合がありますので、よろしくお願いします。

○議長（村田千鶴子議員）　坂田さん。

○８番（坂田美智子さん）　では、私のほうから、当事者の親の声をまとめたものを今日配付させていただきましたが、それを紹介させていただきます。

真ん中に「バリアフリーみんなのいばしょ」と書いてあるものですが、これは、ここに集う人たちが、障害があるなしにかかわらず、みんなお互いに支え合うという心のバリアフリーを指しています。そういう意味で「バリアフリーみんなのいばしょ」という仮の名前をつけさせてもらいました。

見方ですが、周りに５つの丸があります。これが当事者や当事者の親御さんの声です。その周りが、それに対するみんなで考えた知恵がそこに書いてあります。

今日どこまで紹介できるかわかりませんが、まず、①番です。先ほども言いました、「重度障がい者のデイサービス（生活介護）が不足！親は働きたくても働けません」。もし自宅で重度障害の子を見た場合、24時間母親がずっと見ることになります。仕事はもちろんできませんし、精神的にも肉体的にもかなりきついものになります。高校を卒業した後、ずっと長いこと母親が見るという現実になっていってしまうということがとても心配されます。

そこで考えた、みんなの意見ですけれども、考えたものですけれども、左の上です。生活介護を開設（18歳以上の重度障害者向け）のものをここでできないかと。

母子ともに出勤したい。お母様は働きたいということです。子供をそこに預けて、お母さんは敷地内で勤務する。仕事内容としては、例えばですけれども、給食づくりをやったり、おしゃれカフェが開きたい、お菓子づくりがやりたい、農作業がしたい、介護、学習塾、送迎、あとで言いますけれども、修学旅行生の受け入れもやってみたいという声が出ました。

次に、企業から仕事をもらい、ワークセンターを開設。ワークセンターというのは、昔の授産所のことで、仕事ができる障害の方たちが通うところです。

また、ＪＡや京大農学部、また、地元農家さんと連携してまちおこしができないか。例えば、土産用の高級みかん「はんなり美肌になるみかん」をつくってみたいだとか、みかん狩り以外でも、何とか狩りというのができる畑を増やす。ＪＡとしてもこれを考えているというのを少し聞きましたので、それですとか、無農薬野菜の収穫体験をやりたいという話も出ました。

次、２番へ行きます。Ｂさんですが、この方は不登校児を抱えているお母さんです。「発達障がいや不登校児が友達と安心して過ごせるところが欲しいです」ということで、この方は自宅でずっとお子さんを見ています。母子分離不安で、お母さんと離れられないという状態で、学校にも適応

できない、発達障害のグレーゾーンの子です。お母さんはもちろんつきっきりで、ずっとその子といます。いっぱいいっぱいという感じなのですが、例えばそんな子がいますけれども、ほかにも必ず何人かいるということで、発達支援センターが今度４月に島田に開設するということで新聞記事になりましたが、そこと連携できないかと思っています。

教育相談やフリースクール、勉強以外でも農作業や製作やパソコン、それから、障害の方たちに対するボランティアだとか、さまざまな仕事というか、いろいろな体験ができるのではないかと思っています。

修学旅行のお客さんを迎える仕事。もし外国の方がいらっしゃったら、英語でやってみようだとか、本当にいろいろな広がりができるのではないかと思います。

そして、親同士のピアカウンセリング。当事者のお母さんたちが、そこに行けば、気持ちがわかってもらえるという場がとても大事だと本当に思っています。

送迎なのですが、自宅まで来てくれないと、子供が出ていけないという現状があります。それが可能にできないかと思っております。

３番ですが、「全国の支援学校から修学旅行や宿泊訓練に来てほしい」。これは私、とても強く思っていたことですが、私は娘について、中学校のときは京都に、高校のときは長崎に行ってきました。そこで何がうれしかったかというと、やはり現地の方たちが、よく来てくれたねと、とても大きい車椅子なのですけれども、その娘をどうやって受け入れるかというのを心を砕いてくださった。そして、京都に行ったときには、京都の支援学校との交流がありまして、支援学校の高等部の生徒たちが静岡の生徒たちに、清水焼のつくり方をレクチャーしてくれました。清水焼を焼いて郵送してくれるという活動している学校がありまして、とてもいい思い出にもなったし、交流にもなった。

そういうことができないかと本当に思っていたのですが、それを書かせてもらったのです。右のほうにざーっと書いてあるのですが、修学旅行生や観光客向けに「みんなのいばしょで体験してみるさ～」ということで、例えば、茶娘衣装に着がえてもらって、茶摘み体験、記念撮影だとか、摘んだお茶をホットプレートで煎茶にして飲む、茶葉を使ったスイーツづくり、神座だったら、みかんとか、パフェもつくれるよねと。みかん狩りをやったり、ランチもついているよということで、「島田においでよプロジェクト」と書きました。

観光資源が豊富だなと本当にいつも思っているのですが、車椅子の娘と、あと、仲間たちといろいろなところに出かけます。例えば、修学旅行に静岡空港や島田駅から「みんなのいばしょ」に寄ってもらって、半日、いろいろな体験をしてもらう。川根温泉ホテルも、本当にバリアフリーの部屋になっています。寝たきりの子供も本当に入れやすいのです。お風呂に入れやすいです。ＳＬも見えるし、本当にいいホテルだと思いますので、これはぜひ発信していきたいと思います。

あと、掛川花鳥園も全天候型でバリアフリー。そして、イチゴ狩りもできます。御前崎の灯台に行ったりということで、最終日、笹間渡からＳＬに乗ってもらって、賑わい交流拠点に寄り、茶の都ミュージアムとか蓬莱橋にというのを考えました。宿泊訓練だったら、山の家あたりがいいのではないかと、勝手にコースを考えてみたりしました。

４番ですが、「障害者アートの発信地に！」。ＷＡＣという、すばらしい能力を持った障害者、障害児たちの芸術の集団があります。ぜひホームページで見てほしいのですが、いろいろなグッズも販売していまして、本当にすばらしい力のある子たちを埋もれさせておくのはもったいないと思っ

ています。その子たちの発信地になるのではないかといろいろ考えました。

５番ですが、これはリアンの会のお母さんから、「介護用品・おむつなど、比較して使用した上で購入したい」。いろいろなものを展示したり、実際使ってみたり、この場でそういうことができたら、高齢者の方も、急に介護が必要になったときに、あそこに行けばこういうスロープが見られる、おむつは大人用はこんなのがあるのだと、慌てずにここに来て見ていただける、そんな場になればいいと思って、５番を書かせてもらいました。

何よりも一番大事なのは、左下に書きましたけれども、「地域のために地域と共に」というところで、地域の方が、ここに来てくれてよかったと。足を運びたくなるような場所を、本当に一緒につくっていきたいと思います。例えば、お弁当や惣菜の販売、ごみ出しボランティアをやりますよ、すぐ何でもやりますよ、すぐやるボランティア、あと、野菜を購入したり、販売したり、あと、畑の有効活用だとか、コミュニティバスももし増便させてもらったらうれしいとか、地域の人も寄ってもらえる、地域の子供たちも遊びに来てもらえる。子供の意見を聞きましたら、おばけ屋敷がやりたいだとか、猫カフェがやりたいだとか、あと、保護猫がいるので、保護猫を連れてきて、そこでカフェをやりたいだとか、いろいろな子供たちの柔軟な意見も出てきました。

そんなことで、すみません、長くなりましたが、ぜひいろいろな方の知恵をおかりしながら、市としても応援していただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（村田千鶴子議員）　染谷市長。

○市長（染谷絹代）　簡単にお話をさせてください。私は、お話を聞いていて、当事者だからこそ提案できる、まさに一つの、起業家というのはわかりますよね。これから起業する人、その起業する人の提案書のような思いで実はお話を伺いました。それぐらい実現性の高い内容を利用者のニーズを酌み取って提案していただけたと思っています。

市は、これを主体となって市がやることはなかなか難しいです。だけど、しっかりした受け皿があれば、例えば、ピアカウンセリング、こういったものを市のほうからお願いをしてやっていただくというようなことも可能性としてはあると思います。ですから、こうした皆様方のニーズに沿った支援が今後もできるように、誠意を尽くしてまいりたいと思っております。

ぜひこの紙、大切にさせていただいて、この紙が実現して、起業の起案書になるような、そんな日が来ることを願っております。ありがとうございました。